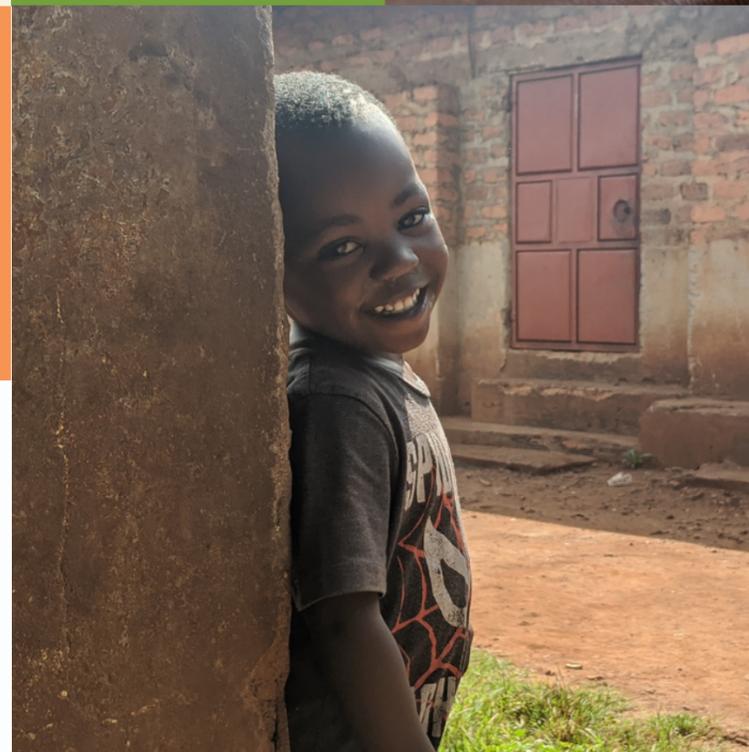


PLAS

# 2022年度事業完了報告

味の素ファンデーション  
「食と栄養」国際支援プログラム  
(AIN)



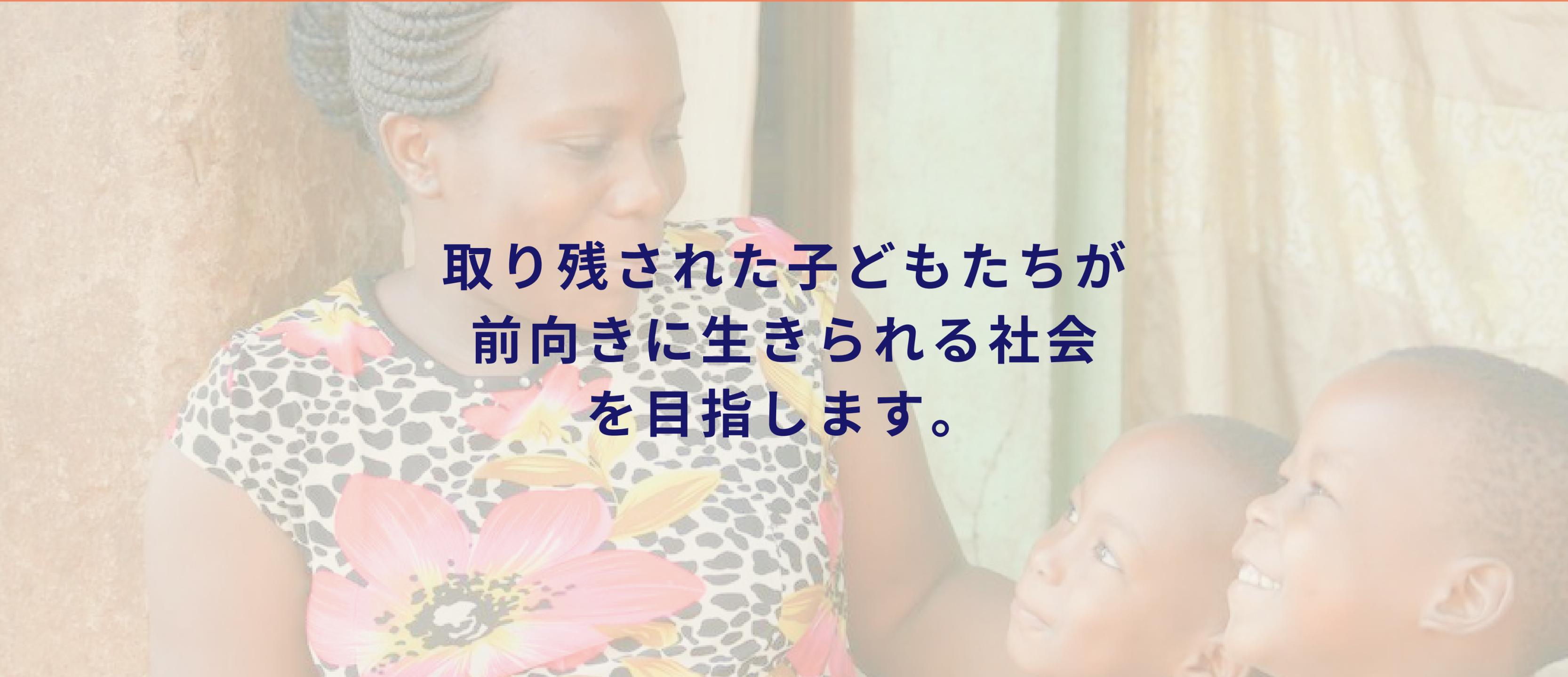
# 目次

1. PLASについて
2. プロジェクト背景
3. プロジェクト概要
4. プロジェクトの活動
5. 活動の結果・レビュー
6. 考察
7. Lessons Learnt
8. 今後の展望
9. ご質問



# PLASのビジョン

**取り残された子どもたちが  
前向きに生きられる社会  
を目指します。**





現地の人たちが立ち上げた団体が  
私たちのパートナーです。



# ケニア



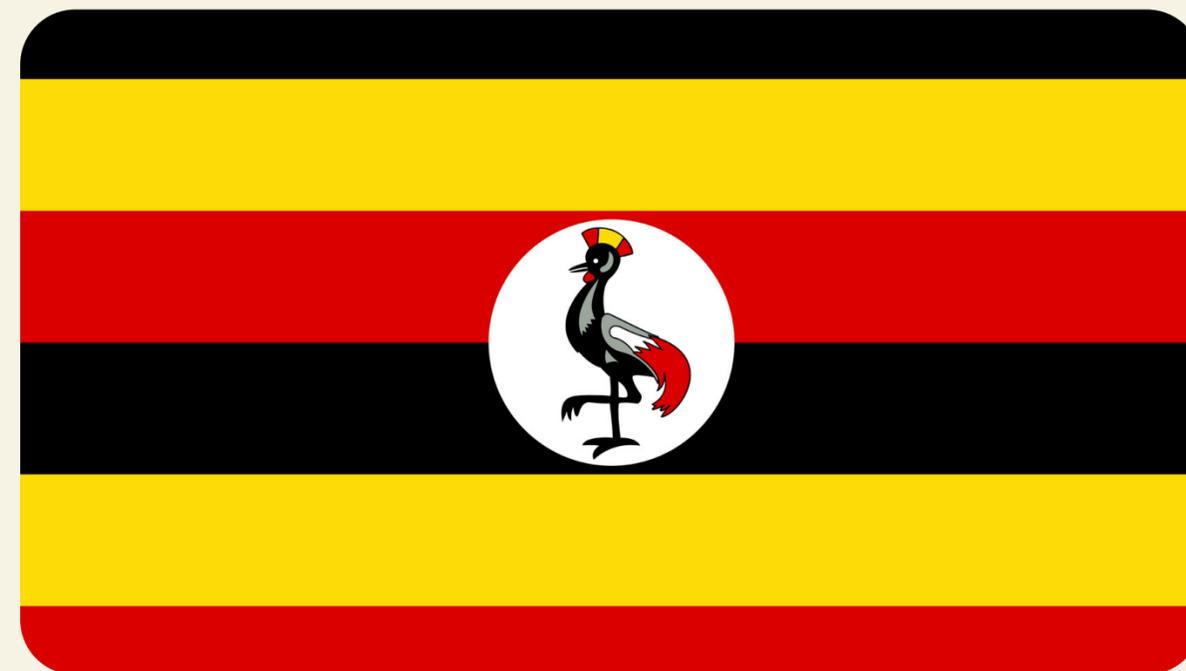
NGO  
ビアジェンコ

# ウガンダ



自助組織  
カユンガ  
NGO  
ヒーレコース

活動地



ウガンダ事業

# カユンガのメンバー紹介



会計  
ジェシカ



代表  
ジョイ



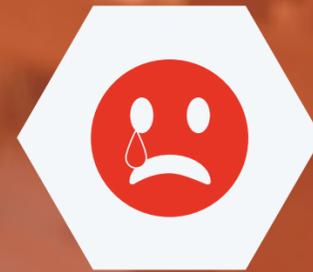
秘書  
フィレスター

# いま支援している人たち

HIV陽性シングルマザーと子どもたちが中心。  
現地のニーズとPLASの特性を生かせる現場へ支援の輪を広げていく。



HIV陽性で不安定な体調



自給自足に近い暮らし



経済的に困窮し小学校を中退



栄養価の高い食事が摂れない

# プロジェクト目的

在来野菜を安定して収穫できる

知識・技術を得る



食事がとれる

→HIV治療薬を飲める

**自家消費**



→栄養改善



→現金収入

**余剰分の販売**



→教育費

→生活必需品

# プロジェクト概要

## 目標

HIV陽性者の方々が、栄養価のある野菜を安定して栽培できる知識や技術を身に付ける



## 指標

### 指標 01

①対象全世帯が研修で**在来野菜**を植えているかを確認する。

### 指標 02

②**食料消費スコア**を元に栄養状態の改善を確認する。



## 測定方法

- 農業行政官によるモニタリングレポート
- 事業事前事後家庭調査

# プロジェクトの活動



## 01

### 現地の土壌・天候に適した 農業技術の習得

- 1-1. 農業の基本的知識の研修を実施
- 1-2. 農業の基本的な技術の研修を実施
- 1-3. 農業行政官による巡回指導を実施



## 02

### グループ農業の実施

- 2-1. 農具を配布
- 2-2. 水タンクを購入し、設置
- 2-3. グループで農業を実施
- 2-4. 収穫した野菜の余剰分を販売

# プロジェクトの活動



## 03

### HIV陽性者とその家族の栄養改善

3-1. 栄養研修を実施

3-2. 家庭訪問を通して、家族の栄養状況を確認

3-3. 新型コロナウイルス感染症に伴うロックダウンにより、食糧が確保できず栄養不足になっている家庭へ食糧を提供

3-4. HIV陽性者の新型コロナウイルス感染症感染予防のために手洗い場を設置

(※3-3, 3-4は計画変更により活動を追加)

# プロジェクトの活動



## 04

### 継続的な貯蓄

4-1. グループ貯蓄を実施



## 05

### 事業の効果を評価

5-1. ベースライン調査を実施

5-2. エンドライン調査を実施

5-3. 事業評価ミーティングを実施

# 活動の結果・レビュー

## 活動1 | 現地の土壌・天候に適した農業技術の習得 **【達成】**

### • 内容

- 植え付け：苗床の作り方、種の撒き方
- 収穫：収穫方法、種の選り分け方
- 販売：マーケティング手法 市場調査

### • 現地の気候と生活体系に合わせた設計

- 雨季直前又は雨季のはじめに実施
- 農作業の邪魔にならない
- 乾期は乾燥に強い在来葉物野菜を栽培

### • 持続性向上のための工夫

- 堆肥、虫よけ、マルチシートは身の回りのもので作成



# 活動の結果・レビュー

## 活動2 | グループ農業の実施

**【達成】**  
グループ農業を自立して維持

水タンクを設置+グループ農業実施



家庭内で自家用野菜を消費した受益者の割合：

50%から**93.8%に向上**

収穫ごとの平均収入：

**270%増加**



ロックダウン中の**食糧確保にも貢献**



# 活動の結果・レビュー

## 活動3 | HIV陽性者とその家族の栄養改善

- **【緊急支援】食糧と感染予防対策用品を配布**
  - ポシヨの粉、米、豆、砂糖、粉ミルク、食用油など  
(現地でよく食べられていて長期保存が可能な食糧)
- **栄養研修**
  - 内容
    - 三大栄養素
    - バランスのよい食事
    - 乳幼児と子どもの栄養 など
  - 現地のヘルスオフィサーと協働で実施
- **家庭へのモニタリング訪問**
  - 受益者と家族の栄養状態をチェック、アドバイス  
→受益者からヘルスオフィサーに相談や質問をする機会に

**【達成】**  
食料消費スコアから  
も改善がわかる



# 活動の結果・レビュー

## 活動4 | 継続的な貯蓄

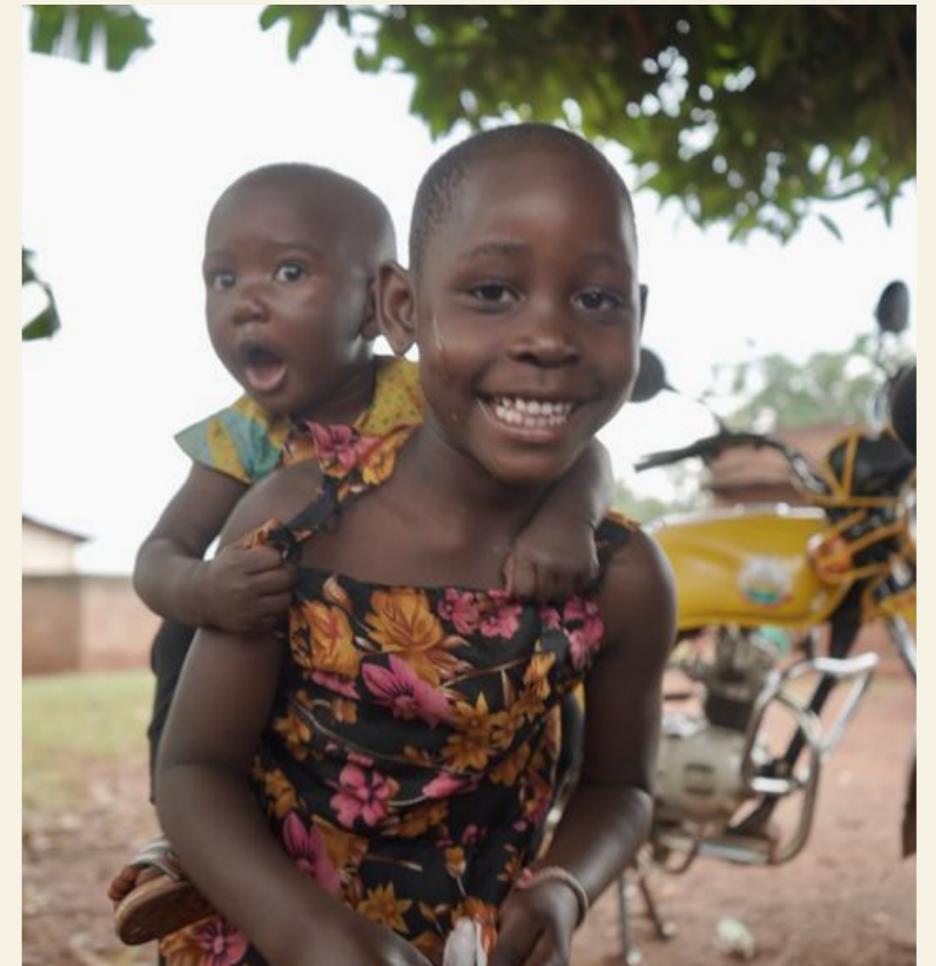
1カ月に2回2000シル  
(78円) ずつ貯蓄

- 2021年6月ロックダウン時  
不織布マスクを購入
- 2022年8月学校の新学期の準備  
(=鉛筆、ペン、ノート)

2023年3月時点

グループ貯蓄継続中。

【達成】  
グループ貯蓄を実施している



# 活動の結果・レビュー

## 活動5 | 事業の効果を評価する

【達成】

目標指標に大幅な改善が見られた

### 実施済み

- ベースライン調査
- エンドライン調査
- 事業評価ミーティング



- ベースライン調査とエンドライン調査の比較分析

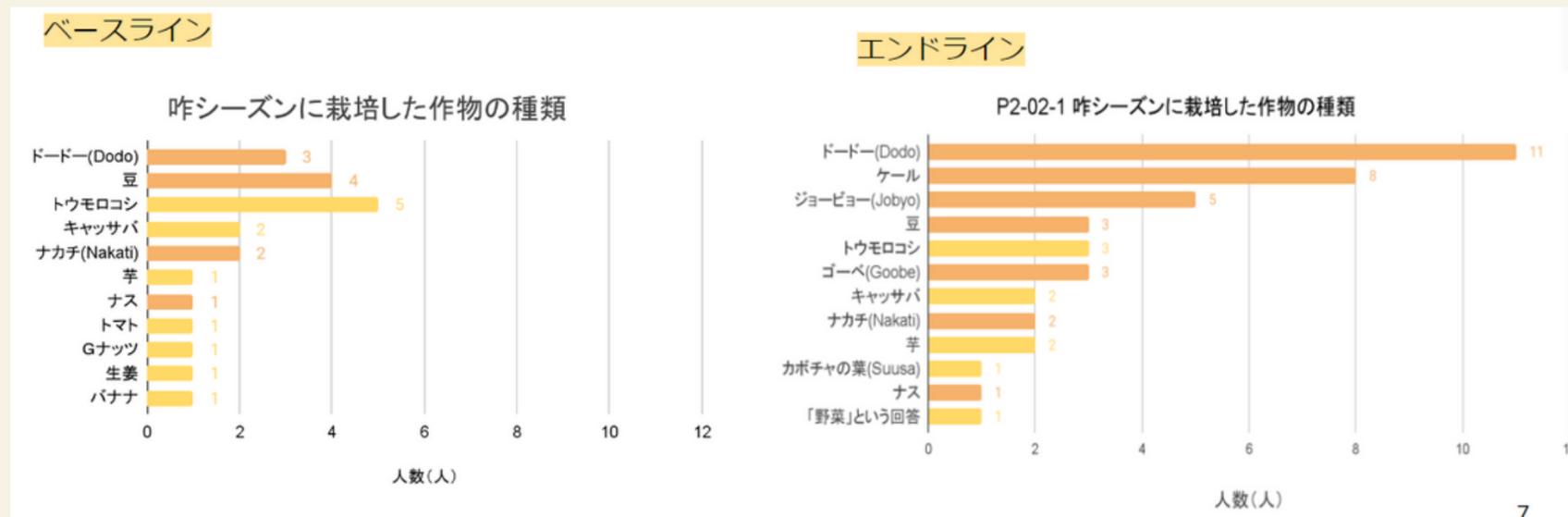


# ベースライン・エンドラインの比較分析結果

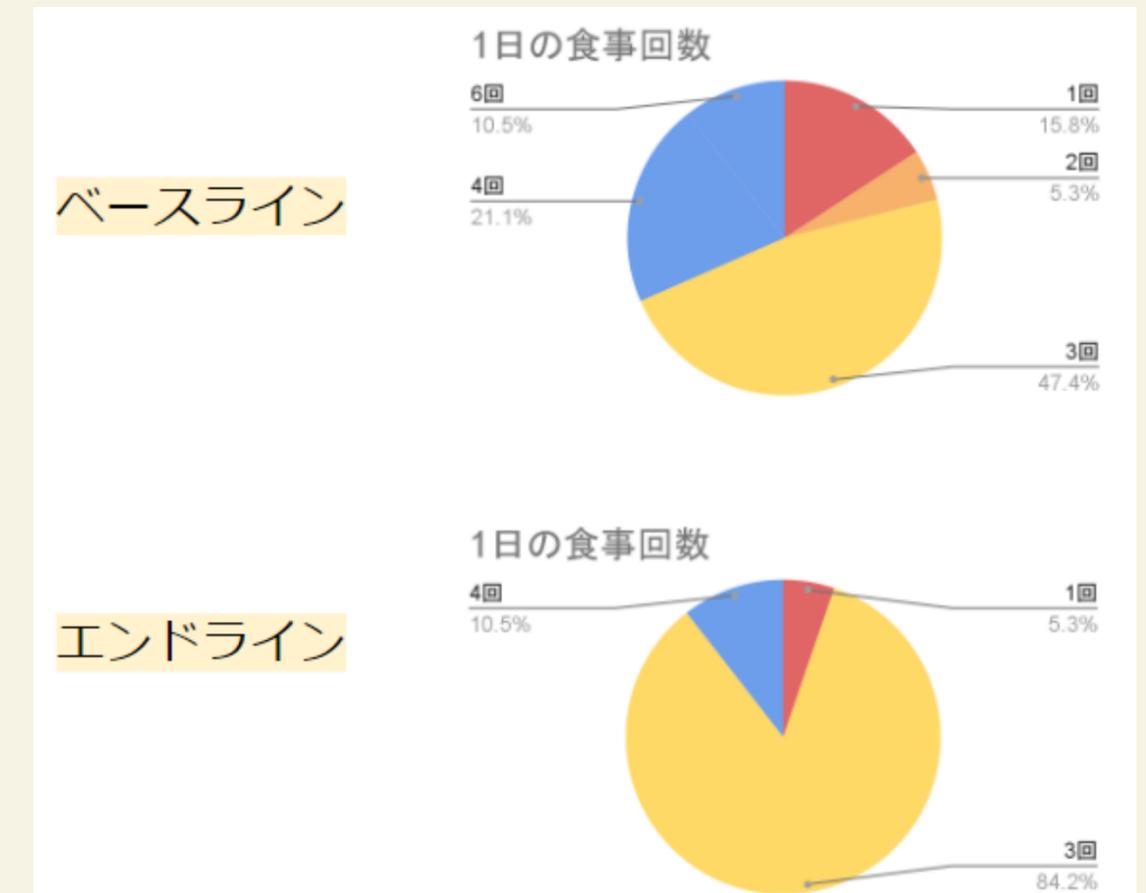
(一部抜粋)

## 活動5 | 評価

### 在来種野菜の栽培増加



### 食事回数の増加

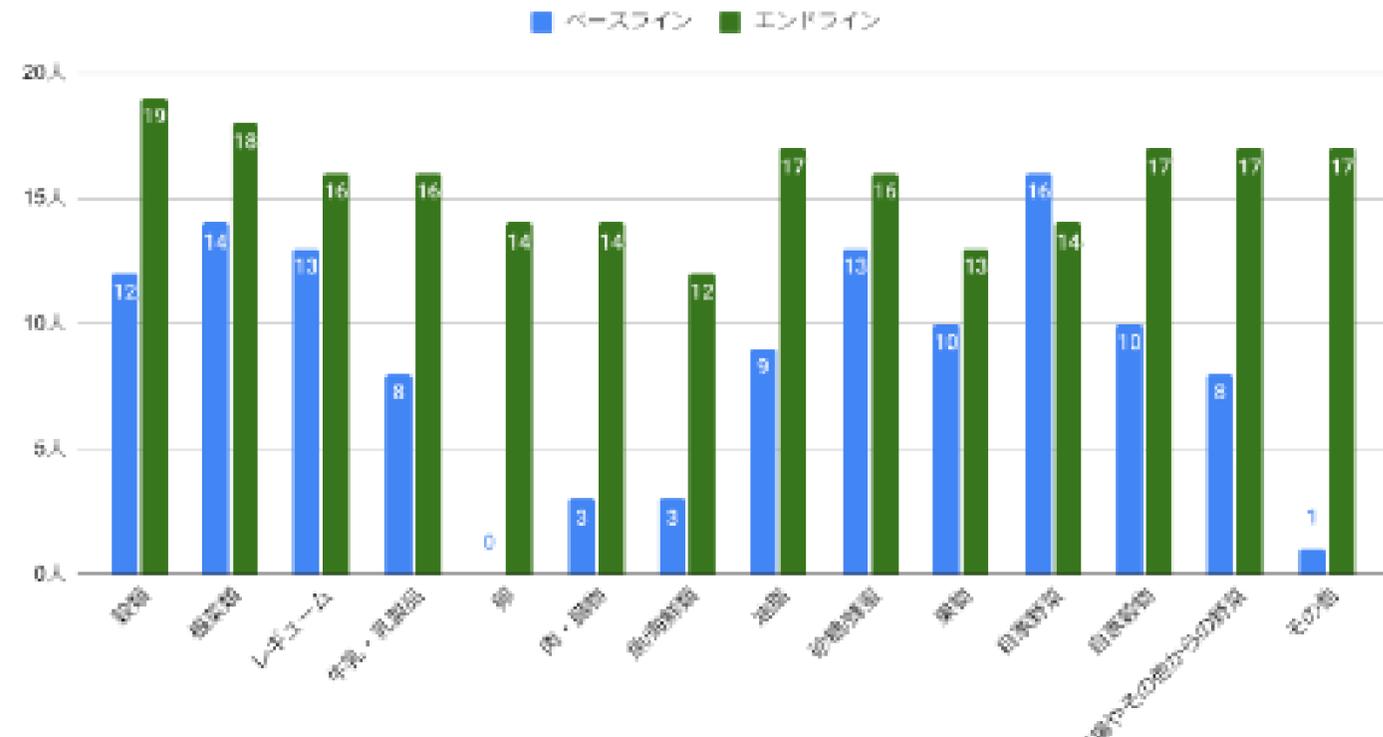


# ベースライン・エンドラインの比較分析結果

## 活動5 | 評価

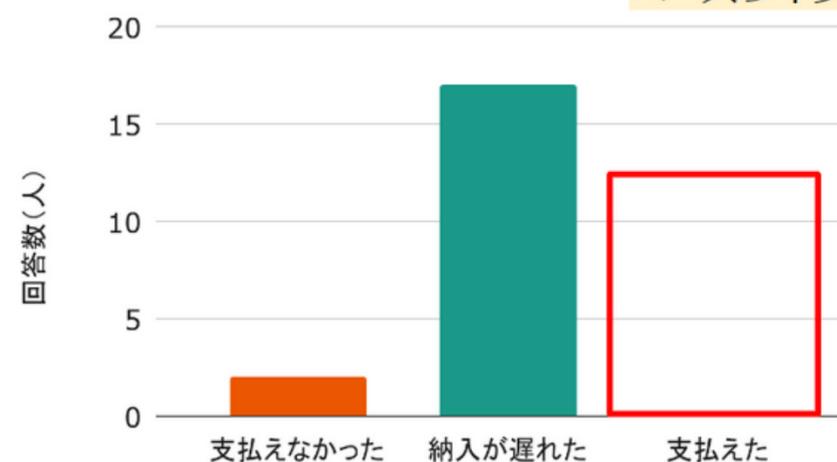
栄養摂取状態・  
食料消費スコアの改善

インタビュー前日に本人または家族の誰かが摂取した食べ物

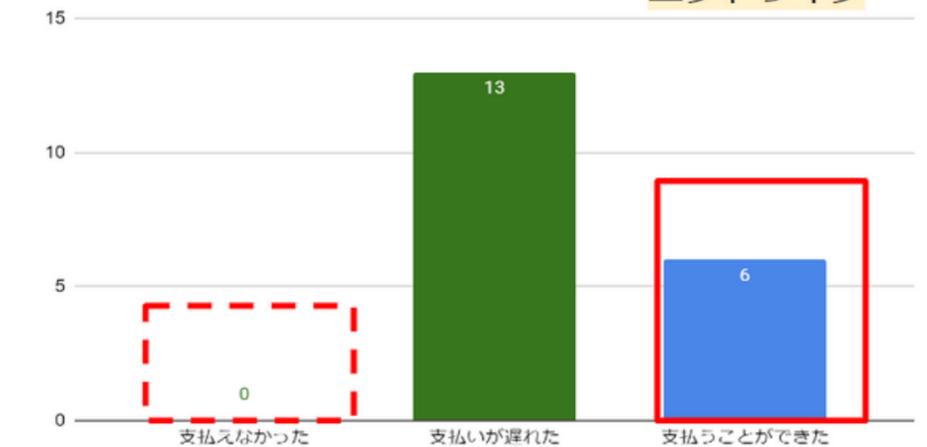


教育費の支払い状況改善

今年度の子どもたちの学費の支払い状況



P2-25:今年度の子供の学費の支払い状況



# 考察

## → 段階的な自立への支援 →

### 2020年（初年度）

- 新型コロナウイルスに関する緊急支援、水タンク設置、農具配布、農地代と種代支援
- グループ貯蓄の頻度増加

2021年 農地代と種代支援のみ

2022年 農業・栄養研修とモニタリングによる伴走支援のみ



3年間で段階を踏んで支援の資金額を減らした一方、モニタリングと研修によるモチベーション維持を継続したことで、**自立までの伴走支援**ができた

## → 食料消費スコア向上 →

2020年4月から2023年3月の3年間で

**グループ農業とグループ貯蓄、在来野菜の自家消費**が可能になり、**食料消費スコアが1.2倍に向上**

プロジェクト目標

「**HIV陽性者の方々が栄養価のある野菜を安定して栽培する知識や技術を獲得する**」を**達成**できた

# LESSONS LEARNT



**現地とともに  
「つくる支援」**

**⇒現地に合わせた  
プロジェクト設計**

例)  
研修内容はカユンガの  
スタッフや現地のオフィサーと協働で設計



**受益者の主体性尊重**

**⇒自立への  
ステップアップ**

例)  
価格が高騰した際は腹持ちの良い作物に受益者が自身の判断で変更



**小さな成功体験  
の蓄積**

**⇒モチベーション維持**

例)  
研修で習った知識や技術を実践し、「できる」を実感

# 今後の展望

## 支援終了後の自立発展性・持続可能性に強く期待



プロジェクトの**成果**

2022年3月（3回の農業期）  
農地代と種代の**支援なく**  
**グループ農業と貯蓄を継続**



3年前に終了したグループが  
現在も**活動を継続**している  
**前例**

「SHINE2（当事業）の前に実施したSHINE1のグループも、**今もグループ農業とグループ貯蓄を継続**している。グループとしてまとまるというのはとても強いと感じている。SHINE2（当事業）もそうできるとよいと思う。」（カユンガ代表）



現在の**受益者グループ**  
の**活動継続意思**

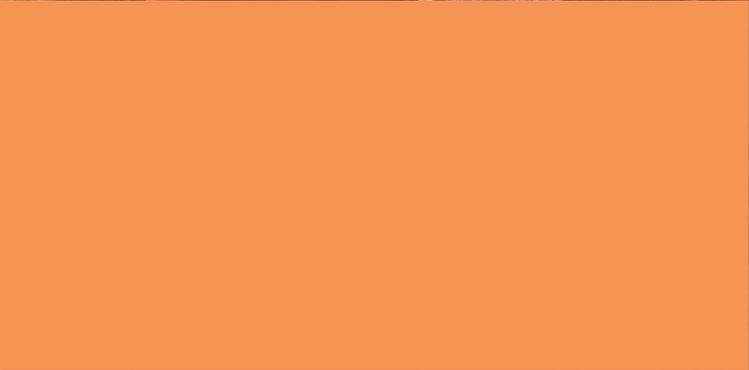
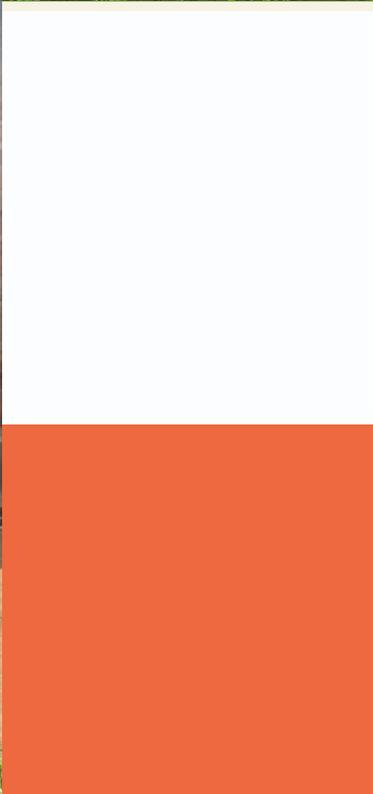
「私はどのように野菜を育てるかを学んだ。他のみんなも学んだ。学んだからには、私は**みんなと畑で（野菜・穀物を）育て続ける**だろう。」（受益者）



# ご質問



PLAS



ご静聴ありがとうございました！